

データ野球・セイバーメトリクス分析

セイバーメトリクス (Society for American Baseball research) とは、野球の記録データをコンピューター分析する方法で、数値処理に基づく統計理論の利用による (新しいゲーム采配と球団運営の方法) を指す。

これは 1977 年にビル・ジェイムズが著した "History baseball Abstract" が原本となっている。しかしこれは従来の伝統的な野球戦略や選手の用法を頭から否定するもので、すんなりと受け入れられるものではなかった。

やがて、ジェイムズが名付けたセイバーメトリクスは、1982 年に再出版されて日の目を見る事となり、やがてベースボール革命を起こすことになる。

これを全面的に採用した球団として、オークランドアスレチックス、ボストン・レッドソックスなど知られている。

従来の野球選手の能力基準はおもに見栄えからくるもので、目に写るものとしてパワフルな打撃、走塁のすばやさ、華麗な守備などが評価のポイントであり、選手起用のポイントであった。

しかしセイバーメトリクスは、このような野球観を否定し、選手の個々のプレーが、得点やチームの勝利にどれほど貢献したかを数値化し、それを評価や運用基準とする。したがって見栄えといった主観的な要素が入る余地がない。

主観的な評価基準では、はかり得なかった選手の能力を客観的に表す事ができる。

メジャーリーグでは多くの球団が取り入れているが日本でこの理論を取り入れている球団は少ないが、この理論は日本でもいずれ注目される。

そして、こういったデータ野球には日本が 1 番適しているのではないかと考える。

2. セイバーメトリクスの必要性

野球のルールは、3 アウト取られない限り永遠に攻撃が続き、逆ではずっと守備に回らねばならないルールである。

セイバーメトリクス上の要点は、攻撃側ではいかにアウトを取られないか、守備側ではいかにアウトを取るかである。

球団運営からすれば、勝利数、盗塁などの選手価格の高騰する要因を省きながら、安価に優れた選手を調達する方法として利用した。具体的には、不確定な要素を可能な限り排除し相手に得点させる要素を徹底して排除しできるだけ安い値段で選手を集め強いチームを作るために使用した。

この過程はマイケル・ルイス著・中山訳 (2006) 【マネーボール】に詳述されている。レッドソックスとアスレチックスの年棒の差は 2 倍近いものがある。アスレチックスは安く調達して育てた選手を他球団へ放出し、見返りに将来性のある選手を獲得して年棒総額を抑え

ていた。

このようにスーパースター選手に限らず優れた資質の選手を安価に見つける上で本当の選手評価となり必要性のある手段となっている。

3 優れた打者を評価するもの

パ・リーグ 打者 順位表

		OBP	SLP	OPS	NOI	GPA	SecA	TA	RC	BRA	BB/K	P/PA	PA/K
1	角中勝也	0.366	0.415	0.782	504,777	1,075	0.201	0.630	102,992	0.782	0.559	13,816	7,721
2	中島裕之	0.382	0.451	0.833	531,926	1,138	0.265	0.671	130,282	0.833	0.684	10,904	7,461
3	糸井嘉男	0.404	0.410	0.813	540,286	1,136	0.300	0.670	141,551	0.813	0.872	7,960	6,942
4	内川聖一	0.342	0.392	0.734	472,808	1,008	0.166	0.573	95,439	0.734	0.861	18,290	15,750
5	田中賢介	0.350	0.363	0.713	471,180	0,993	0.153	0.546	84,485	0.713	0.972	14,429	14,028
6	秋山翔吾	0.343	0.404	0.747	477,351	1,021	0.201	0.578	73,758	0.747	0.400	16,071	6,429
7	稲葉篤紀	0.342	0.421	0.762	481,825	1,036	0.214	0.611	90,411	0.762	0.457	15,531	7,100
8	栗山巧	0.378	0.353	0.731	495,619	1,033	0.216	0.556	100,935	0.731	0.839	8,981	7,532
9	陽岱鋼	0.337	0.398	0.735	469,932	1,005	0.212	0.576	99,896	0.735	0.301	16,189	4,870
10	李大浩	0.368	0.478	0.846	527,086	1,140	0.324	0.679	137,711	0.846	0.753	9,391	7,071
11	銀次	0.318	0.354	0.672	436,237	0,927	0.144	0.492	68,967	0.672	0.595	22,045	13,108
12	ペーニャ	0.339	0.490	0.829	502,663	1,101	0.308	0.697	103,072	0.829	0.269	14,486	3,900
13	根元俊一	0.322	0.396	0.718	453,853	0,976	0.180	0.518	85,986	0.718	0.316	18,839	5,959
14	長谷川勇	0.352	0.360	0.712	472,231	0,994	0.231	0.554	94,996	0.712	0.460	11,825	5,437
15	ヘルマン	0.346	0.343	0.689	459,948	0,965	0.249	0.549	106,677	0.689	0.760	10,228	7,773

セ・リーグ 打者 順位表

		OBP	SLP	OPS	NOI	GPA	SecA	TA	RC	BRA	BB/K	P/PA	PA/K
1	阿部 慎之介	0.429	0.565	0.994	617,008	1,337	0.392	0.838	166,287	0.994	1.468	8,058	11,830
2	坂本勇人	0.359	0.456	0.815	511,148	1,102	0.253	0.695	129,665	0.815	0.433	15,872	6,878
3	大島洋平	0.376	0.368	0.774	498,744	1,045	0.191	0.576	115,325	0.744	0.575	13,717	7,888
4	長野久義	0.382	0.432	0.815	526,507	1,121	0.286	0.685	143,290	0.815	0.750	8,707	6,530
5	ミレッジ	0.379	0.485	0.865	541,139	1,168	0.321	0.703	123,843	0.865	0.722	9,579	6,911
6	ラミレス	0.333	0.473	0.806	490,896	1,073	0.225	0.660	86,507	0.806	0.300	28,000	8,400
7	川端慎吾	0.348	0.380	0.728	474,742	1,006	0.166	0.551	87,628	0.728	0.625	14,486	9,054
8	和田一浩	0.370	0.409	0.780	506,790	1,076	0.270	0.620	129,983	0.780	0.986	8,254	8,139
9	井端弘和	0.356	0.331	0.687	466,393	0,972	0.160	0.502	91,760	0.687	0.897	10,635	9,534
10	中村紀洋	0.346	0.407	0.753	481,747	1,030	0.251	0.589	98,838	0.753	0.694	10,000	6,944
11	田中浩康	0.354	0.323	0.677	462,112	0,961	0.179	0.462	106,554	0.677	0.900	10,981	9,883
12	荒波 翔	0.305	0.333	0.639	416,335	0,883	0.145	0.485	66,285	0.639	0.256	23,913	6,111
13	畠山和洋	0.323	0.402	0.725	456,647	0,983	0.224	0.572	85,328	0.725	0.578	13,432	7,766
14	鳥谷 敬	0.373	0.375	0.748	498,102	1,046	0.320	0.594	144,705	0.748	1.033	6,638	6,857
15	マートン	0.290	0.342	0.632	403,695	0,864	0.119	0.461	51,425	0.632	0.321	26,278	8,446

OBP (On Base Percentage) 出塁率 (アウトのなりにくさ) セイバーメトリクス
 のデータ分析における基本的な指標である。これは、打者がどれほど塁に出る
 ことに優れているか、つまりアウトになりにくいを示すものである。セイバー
 メトリクスにおいて、アウトはもっとも低い評価と考えられ、出塁する機会が多
 ければ多いほど得点に結びつく確率が高くなるからだ。出塁率は基本的に、内容
 はどうであれ全打席数に対し、塁に出た回数で求める。出塁率を求める定義
 は以下のようなになる。

$$\text{OBP} = \frac{\text{安打} + \text{四球} + \text{死球}}{\text{打数} + \text{四球} + \text{死球} + \text{犠飛}}$$

OBP のトップ 3

①	パ・リーグ	糸井	0, 404	セ・リーグ	阿部	0, 429
②		中島	0, 382		長野	0, 382
③		栗山	0, 378		ミレッジ	0, 379

SLP (Slugging Percentage) 長打率 (1 打席でどこまで進むか) この指標は、1 打
 席でどこまで塁に進めたかを求める指標である。1 つでも多くの塁を稼ぐことが
 できるほど得点に結びつく確率が高くなるため、この指標もメジャーリーグでは
 高く評価される要素である。この指標では 1 以上の数値を残すと、毎打席少なく
 とも 1 塁に進塁しているという結果になる。また、3 塁打や本塁打などの長打が
 多い選手・俊足といわれるような足の速い選手であれば、この SLP の指標が高く
 なる傾向がある。長打率を求める定義は以下のようなになる。

$$\text{SLP} = \frac{\text{塁打}}{\text{打数}}$$

SLP のトップ 3

①	パ・リーグ	ペーニャ	0, 490	セ・リーグ	阿部	0, 565
②		李 大浩	0, 478		ミレッジ	0, 485
③		中島	0, 451		ラミレス	0, 473

OPS (On Base Plus Slugging Percentage) 出塁率+長打率 (しぶとく、塁を稼げる) この指標は出塁率と長打率を加算したものだが、これが示すものはアウトになりにくい、すなわち出塁率が高く、なおかつ長打を打つ能力が高い選手を見つけ出すことができる。また、俊足の選手でもあるかもしれない。この **OPS** も高い数値を残すほど優れた選手といえ、かつ勝利貢献度も高いといえる。これで求められた数値は、1 試合当たりの平均得点と高い相関がみられることもわかった。この **OPS** の定義は以下である。

$$\text{OPS} = \text{OBP} + \text{SLP}$$

OPS のトップ 3

①	パ・リーグ	李大浩	0, 846	セ・リーグ	阿部	0, 994
②		中島	0, 833		ミレッジ	0, 865
③		ペーニャ	0, 829		坂本	0, 815

NOI (New Offence Initiative) 新攻撃指標 (**OPS** の修正) **NOI** は新攻撃指標とよばれ、**OPS** の修正を施したものなのだが、**OPS** には弱点があった。それは出塁率と長打率を同等に評価してしまっているというところである。これは得点との相関に対してどちらが重要であるかを加味しないとイケないので、この指標では **SLP** を 3 で割ることで **3:1** のウエイトをかけて計算する。この **3** という数字は何通りも試してみた結果、もっとも当てはまりがよかった数値だったからで、深く追求することはできない。**SLP** にウエイトをかけていることから、出塁率が得点の相関に対して重要視されていることがわかる。**NOI** の定義は以下である。

$$\text{NOI} = \{ \text{OBP} + (\text{SLP} \div 3) \} \times 1000 = \{ \text{出塁率} + (\text{長打率} \div 3) \} \times 1000$$

NOI のトップ 3

①	パ・リーグ	糸井	540, 286	セ・リーグ	阿部	617, 008
②		中島	531, 926		ミレッジ	541, 139
③		李大浩	527, 086		長野	526, 507

GPA (Gross Production Average) **NOI** の修正 これも **OPS** の変換をした指標であり、**NOI** と同じなのだが、これは出塁率と長打率の比率の変化をまた違った方法で求めている。**NOI** は発祥であるメジャーリーグで当てはまりがよかったが、日本のプロ野球に当てはめてみると、どうもしっくりこなかった。そこで日本のプロ野球でも当てはまるようにと **GPA** がつくられた。いふなれば日本版の **NOI** ということだ。この指標では出塁率に **1,8** をかけることで、**1,8:1** といった **NOI** と

同じようにウエイトをかける。これは出塁率に対してウエイトをかけているので、長打率を重要視しているように思うが、このウエイトは掛け算なので NOI と同じく出塁率を重要視しているということに気をつけていただきたい。GPA の定義は以下である。

$$\text{GPA} = (\text{OBP} \times 1.8 + \text{SLP}) \div 4 = (\text{出塁率} \times 1.8 + \text{長打率}) \div 4$$

GPA のトップ 3

①	パ・リーグ	李大浩	1, 140	セ・リーグ	阿部	1, 337
②		中島	1, 138		ミレッジ	1, 168
③		糸井	1, 136		長野	1, 121

SecA (Secondary Average) 第二の打率 (※打撃以外の攻撃能力も加味する) 第二打率と呼ばれている **SecA** は、一見難しそうに思うかもしれないが、簡単に表現すると打撃以外の攻撃能力も加えた数値を導き出しているということだ。従来の代表的な打率(AVG)は、打撃だけに着目して導き出した数値であるのだが、実際野球には様々な攻撃戦略が存在している。極端に例えるなら安打を打たずして、得点が入る可能性もないとは言いきれないのである。そういった点をしっかり評価し数値を導き出すのが、この第二の打率と呼ばれる **SecA** を使いデータ分析を行うのである。**SecA** を求める定義は以下である。

$$\text{SecA} = \frac{\text{塁打数} - \text{安打数} + \text{四球数} + \text{盗塁数} - \text{盗塁刺}}{\text{打数}}$$

SecA のトップ 3

①	パ・リーグ	李大浩	0, 324	セ・リーグ	阿部	0, 392
②		ペーニャ	0, 308		ミレッジ	0, 321
③		糸井	0, 300		鳥谷	0, 320

簡単に説明してみると、分子にある塁打数から安打数で引くことで、長打力を導く。そして四死球を加えることで安打以外での出塁を加算する。そしてセイバーメトリクスにおいてはあまり評価されない盗塁数も加えるのだが、なぜ盗塁数を加えるのかというと、1つでも多く塁を稼ぐことは得点に結びつく確率が高くなるためである。これは成功すれば当然攻撃能力になる。しかし、やはり盗塁という作戦はアウトを与えてしまう可能性があり、

セイバーメトリクスの戦略には評価されない点であるため、上記の式をみてわかるとおり盗塁数から盗塁刺を引くことで、ペナルティを与えている。つまり、安打数は本塁打を記録しても1であるため、打率や長打率データを加工し出塁率を加えることで、長打力があり出塁率の高い選手を見つけ出すことができるのが、この **SecA** のデータ分析になる。

TA (Total Average) 1 アウト当たり、どれだけ塁を獲得できるか

これは、総合平均ともいいその選手が1アウトを取られるまでに、どれだけ塁を奪うことができるかを求めることができる。単純にこの指標を用いて1以上の数値を示した場合、少なくとも1アウトを取られるまでに何らかの形で出塁していることになるので、いわゆるチャンスメーカーと評価される。このことから分かるように、より高い数値を示した選手ほどチャンスメーカーであるとともに、勝利貢献度も高くなっているということがいえる。TAを求める定義は以下である。

$$TA = \frac{\text{塁打数} + \text{四球数} + \text{盗塁数} - \text{盗塁刺}}{\text{打数} - \text{安打数} + \text{盗塁刺} + \text{併殺打}}$$

分母の打数から安打数を引くことで、アウトになった打数を求め、そこに盗塁の失敗数と併殺の数を足す。これで分母は全アウト数を示すことになる。分子では、塁打数はもちろん四死球と盗塁数で獲得した塁数も含め、**SecA** と同じくアウトになる確率のある盗塁刺をペナルティで引くことで、獲得した全塁数を示す。これを計算することで、1アウトを取られるまでに、どれだけ塁を獲得することができるかを求めることができる。

TA のトップ3

- | | | | | | | |
|---|-------|------|--------|-------|------|--------|
| ① | パ・リーグ | ペーニャ | 0, 697 | セ・リーグ | 阿部 | 0, 838 |
| ② | | 李大浩 | 0, 679 | | ミレッジ | 0, 703 |
| ③ | | 中島 | 0, 671 | | 坂本 | 0, 695 |

BRA (Batter's Run Average) 打者得点率

この **BRA** の計算式は出塁率と長打率の積なのだが、出塁率と長打率の和であった **OPS** に対してより正確な数値を求めることが可能になるのである。例えば、出塁率が同じ2を示す数値がでた選手が2人存在するとする。そして片方は長打率が1を示し、もう一方は2を示したとする。このとき、**OPS** で計算し評価をおこなう場合、両者の差は1になり評価

をつけるには甲乙つけがたい。しかし、この **BRA** を用いて計算すると出塁率と長打率の積になるため、両者の評価は前者は **2**、後者は **4** と倍の評価になる。野球のデータというものは、セイバーメトリクスにおいてはたまたま偶然にして出現した、確率変動として考えられるため、この指標は出塁率が高いと同時に長打率も高い選手の指標として利用される。実際のチーム得点率との当てはまりの良さをチェックするために見直した結果、**SLP** より当てはまりが良かったため、**SLP** の代わりに指標として提案された。**BRA** を求める定義は以下である。

BRA=OBP+SLP = (出塁率×長打率)

BRA のトップ3

- | | | | | | | |
|---|-------|------|--------|-------|------|--------|
| ① | パ・リーグ | 李大浩 | 0, 846 | セ・リーグ | 阿部 | 0, 994 |
| ② | | 中島 | 0, 833 | | ミレッジ | 0, 865 |
| ③ | | ペーニャ | 0, 829 | | 坂本 | 0, 815 |

RC (Runs Created) 生み出された得点

これは、セイバーメトリクスで最も重要視しなければならない指標といえる程、重要である。

まず、セイバーメトリクスの理論をいち早く取り入れたのが、当時資金難にあった球団、オークランド・アスレックスの **GM** をしていたビリー・ビーンである。彼がこの理論を取り入れたことでアスレックスを強豪チームへと押し上げ、その際にセイバーメトリクスが世に知られることになった。彼が当時使った手法を記した「マネー・ボール 奇跡のチームを作った男」(2011年に映画化)という書籍が世界的に大ヒットした。そして、ビリー・ビーンがチームを強くするため、トレードをおこなうときに選手の能力・評価を抽出するときに用いたのが、この **RC** という指標であった。

野球というスポーツで勝つためには、得点をとらなければいけないのが大前提であり、”打者は勝利の為に点をとる” という思想からこの **RC** が生まれた。**RC** を求める定義は以下である。

$$RC = \frac{(\text{安打} + \text{四球}) \times \text{総塁打数}}{\text{打数} \times \text{四球}}$$

分母の打数と四球数の和で、出塁の機会を求める。分子の安打数と四球数の和で出塁数を求め、出塁数と総塁打数=進塁数をかける。つまり、RCは出塁の機会を出塁数と進塁数の積で割る。このように近代的に考えることで、打者の獲得得点と考えることができる。

このRCはセイバーメトリクスの第一人者であるビル・ジェイムスが1985年に開発したもので、それ以降も開発と修正を繰り返した。

RCのトップ3

①	パ・リーグ	糸井	141, 551	セ・リーグ	阿部	166, 287
②		李大浩	137, 711		鳥谷	144, 705
③		中島	130, 282		長野	143, 290

RC2002 選手の勝利貢献度

定義は以下のように修正された。

$$RC2002 = \{(A + 2.4 \times C) \times (B + 3 \times C) \div (9 \times C)\} - 0.9 \times C$$

定義・A = 安打数 + 四死球数 - 盗塁刺 - 併殺打

$$B = \text{塁打数} + \{0.24 \times (\text{四球} - \text{故意四球} + \text{死球})\} + 0.62 \times \text{盗塁数} + \{0.5 \times (\text{犠打} + \text{犠飛})\} - 0.03 \times \text{三振}$$

$$C = \text{打数} + \text{四死球} + \text{犠打数} + \text{犠飛数}$$

攻撃力に優れた選手は100を超えた数値になる。また、各選手の数値を合計するとチームの総得点と近似的に一致する。

RC27 1試合当たりの得点能力

この指標は1試合での得点能力を示すことができる。27という数字は、野球というスポーツのルールは3アウト取られることで攻守が交代し、それを9回までおこなうので1試合

分の全アウト数は 27 個になる。その 27 個のアウトで選手一人当たりがどれだけの得点を生み出すか示すことができる。定義は以下である。

$$RC27=(RC \times 27) \div (\text{打数} - \text{安打数} + \text{犠打数} + \text{犠飛数} + \text{盗塁刺} + \text{併殺打})$$

① 糸井 6、47 阿部 9、00

② 中島 6、29 ミレッジ 6、46

③ 李大浩 5、99 長野 6、45

次はよりしぶとい打者を求めるための指標である。

BB/K (Bases Balls per Strikeout)

この指標は打者が三振 1 個に対して四球をいくつ選べたかを求めるものである。三振数を四球数で割ることで求めることができる。数値が高いほど選球眼に優れているといえ、1 以上あると優秀である。定義は以下である。

$$BB/K = \text{四球数} \div \text{三振数}$$

PA/BB (Plate Appearances per Bases on Balls)

四球を選ぶのに必要な打席数を求めることができる指標。打席数を四球数で割ることで求めることができる。優れた指標は 5 前後とされており、すなわち 5 打席に 1 回四球を選んでいるということになる。この指標の場合、数値が低いほど、より優秀ということになる。定義は以下である。

$$PA/BB = \text{打席数} \div \text{四球数}$$

P/PA (Pitch per Plate Appearances)

1 打席あたりに、投手に何球放らせたかを求める指標。投球数を打席数で割って求める。

高い数値を示すほど優秀ということになる。定義は以下である。

$$P/PA = \text{投球数} \div \text{打席数}$$

PA/K (Plate Appearances per Strikeout)

三振 1 個奪われるのに、必要な打席数を求める指標。打席数を三振数で割ること求めることができる。この指標も高い数値を示すほど優秀ということになる。定義は以下である。

4. 選手に見合った年棒

2012年 阪神タイガース
(年棒、打率、OBP、SLP、RC)

昨 年 度 の 主 に 活 躍 し た 選 手 1 5 名

	年棒	打率	OBP	SLP	RC
鳥谷 敬	28000万円	0.262	0.373	0.375	79.93
新井 良太	2800万円	0.28	0.365	0.438	51.97
金本 知憲	22000万円	0.258	0.347	0.36	47.75
上本 博紀	2100万円	0.254	0.333	0.345	24.76
関本 賢太	7500万円	0.212	0.345	0.253	11.02
ブラゼル	15600万円	0.233	0.285	0.404	26.5
桧山 進次郎	3800万円	0.224	0.333	0.241	4.77
大和	2400万円	0.257	0.3	0.318	30.83
柴田 講平	1500万円	0.234	0.322	0.273	12.79
マートン	24000万円	0.26	0.29	0.342	39.53
藤井 彰人	4200万円	0.248	0.285	0.286	16.19
平野 恵一	19000万円	0.245	0.313	0.271	42.43
小宮山 慎	1700万円	0.148	0.216	0.174	2.75
新井 貴浩	25000万円	0.25	0.296	0.363	45.97
今成 亮太	720万円	0.292	0.333	0.323	9.42

年棒と OBP ランキング

鳥谷 敬	28000万円	①	鳥谷 敬	0.373
新井 貴浩	25000万円	②	新井 良太	0.365
マートン	24000万円	③	金本 知憲	0.347
金本 知憲	22000万円	④	関本 賢太郎	0.345
ブラゼル	15600万円	⑤	上本 博紀	0.333
平野 恵一	19000万円	⑥	今成 亮太	0.333
関本 賢太郎	7500万円	⑦	松山 進次郎	0.333
藤井 彰人	4200万円	⑧	柴田 講平	0.322
松山 進次郎	3800万円	⑨	平野 恵一	0.313
新井 良太	2800万円	⑩	大和	0.3
大和	2400万円	⑪	新井 貴浩	0.296
上本 博紀	2100万円	⑫	マートン	0.29
小宮山 慎一	1700万円	⑬	ブラゼル	0.285
柴田 講平	1500万円	⑭	藤井 彰人	0.285
今成 亮太	720万円	⑮	小宮山 慎一	0.216

SLP ランキングと RC ランキング

①	新井 良太	0.438	①	鳥谷 敬	79.93
②	ブラゼル	0.404	②	新井 良太	51.97
③	鳥谷 敬	0.375	③	金本 知憲	47.75
④	新井 貴浩	0.363	④	新井 貴浩	45.97
⑤	金本 知憲	0.36	⑤	平野 恵一	42.43
⑥	上本 博紀	0.345	⑥	マートン	39.53
⑦	マートン	0.342	⑦	大和	30.83
⑧	今成 亮太	0.323	⑧	ブラゼル	26.5
⑨	大和	0.318	⑨	上本 博紀	24.76
⑩	藤井 彰人	0.286	⑩	藤井 彰人	16.19
⑪	柴田 講平	0.273	⑪	柴田 講平	12.79
⑫	平野 恵一	0.271	⑫	関本 賢太郎	11.02
⑬	関本 賢太郎	0.253	⑬	今成 亮太	9.42
⑭	桧山 進次郎	0.241	⑭	桧山 進次郎	4.77
⑮	小宮山 慎一	0.174	⑮	小宮山 慎一	2.75

2012年～2013年の年棒

選手	年齢	2013	2012	
藤井 彰人	36	4200	4000	
小宮山慎二	27	1700	1500	
鳥谷 敬	31	28000	30000	
新井 貴浩	35	25000	25000	
関本賢太良	34	7500	7500	
新井 良太	29	2800	1200	
大 和	25	2400	1400	
上本 博紀	26	2100	1800	
マートン	31	24600	23400	
松山進次郎	43	3800	4000	
柴田 講平	26	1500	1700	
今成 亮太	25	720	620	
平野 恵一	32		19000	移籍
ブラゼル	31		15600	退団
金本 知憲	43		22000	引退

(1) 年棒は見合っているのか

①鳥谷

鳥谷はキャプテンも務め、チームの顔でもある。成績を見ても **OBP** 0.373、**SLP** 0.375 ともに上位である。この成績を踏まえるとなぜ 2000 万円減るのかわからない。セ・リーグのランキングにも入っているのだから上がることはなくても減額はない。5 位で終えたことが減額の理由となっているかもしれないがそれは個人の責任ではない。この成績で減額なら他の選手はどれだけ減額されるのかと思う。

②新井貴浩

SLP は 0.363 と高い数字を残しているが **OBP** は 0.296 で 11 位となっており打線の中心を担う打者としては物足りなさを感じる。セ・リーグのランキングには入っているが、この出塁率ならあまり評価できない。この成績なら年棒はもっと減額してもいいと思う。この程度の選手で 25000 万円も出すのならもっと低い値段でもっといい選手を取れると思う。

③金本

金本はキャリアの長い選手でファンからも非常に好感である。成績の方は **OBP** 0.347、**SLP** 0.360 と高く、頼れる存在となっている。さらにこの年は連続出場記録など記録づくしで、球界を代表する一人でもある。だから 22000 万円という年棒は普通なら妥当と考えるであろうが年齢も重ねていたため守備では活躍どころか迷惑をかけていた部分が多い。そういった点も評価の対象なら年棒はもっと減額である。2012 年に引退した。

④マートン

この年の成績は **OBP** 0.290、**SLP** 0.342 と振るわなかった。成績が悪かったのだから 1000 万円アップは明らかにおかしいので逆にもっと減額しなければいけないと思う。マートンは「I don't like 能見さん」という侮辱的な発言など人としても少し問題があり、どこに評価する部分があるのかわからない。

⑤ブラゼル

成績は **OBP** 0.285 **SLP** 0.404 と長打に関してはチーム 2 位だが出塁は 13 位と非常に低い。新井貴浩と同様、打線の軸になれていない。ホームランが持ち味の選手なのにそのホームランでさえも少ない。ホームラン打者であれば西武ライオンズの中村選手のように出塁率はすくなくともつねにホームラン王が狙える位置にいるような脅威のあるバッターでなければいけない。だからこの選手の退団という決断は間違いなかったと言える。退団することによって 15600 万円の黒字も生まれた。